

## 4 高齢者の就業

### (1) 高齢者の雇用情勢

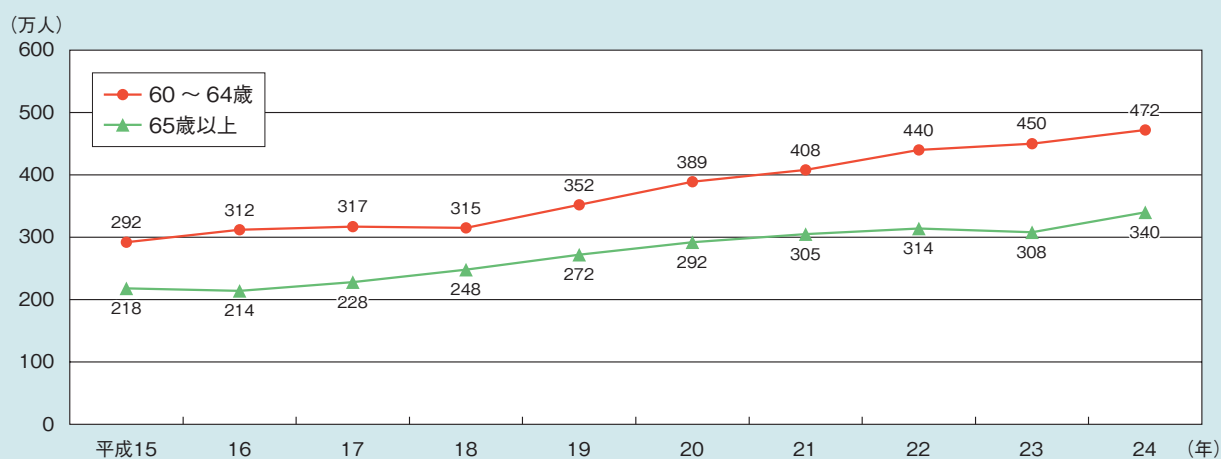
総務省「労働力調査」で全産業の雇用者数の推移をみると、平成24（2012）年時点で60～64歳の雇用者は472万人、65歳以上の雇用者は340万人となっている（図1-2-4-1）。

また、定年到達者の状況を見ると、平成24

（2012）年6月1日時点において、過去1年間の定年到達者のうち、継続雇用された人の割合は73.6%となっている（図1-2-4-2）。

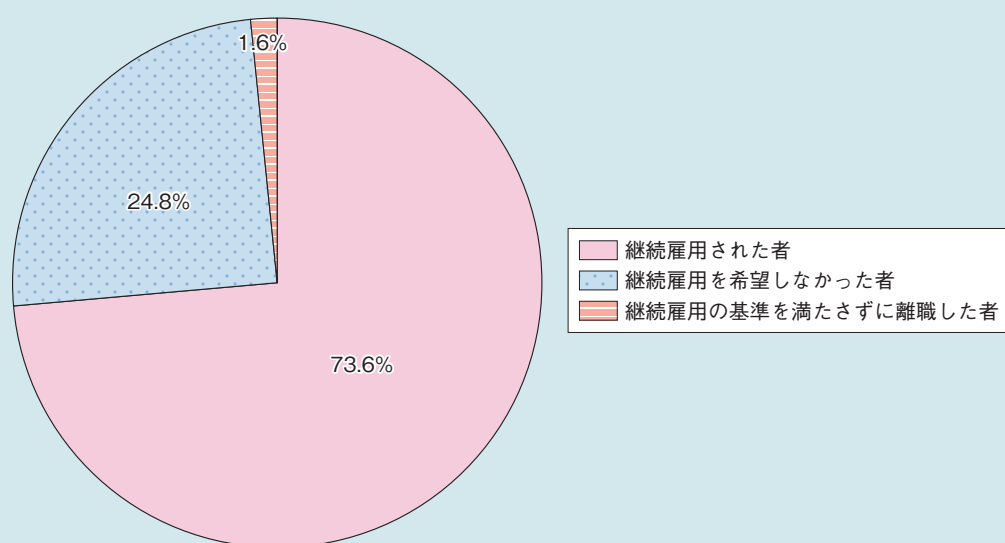
完全失業率は、近年、経済情勢の急速な悪化を受けて上昇していたが、平成23（2011）年以降は低下傾向にある（図1-2-4-3）。

図1-2-4-1 雇用者数の推移（全産業）



資料：総務省「労働力調査」  
※平成23年は、岩手県、宮城県及び福島県を除く44都道府県の集計結果

図1-2-4-2 定年到達者の状況



資料：厚生労働省「平成24年「高齢者の雇用状況」集計結果」  
※常用労働者数31人以上規模企業を集計

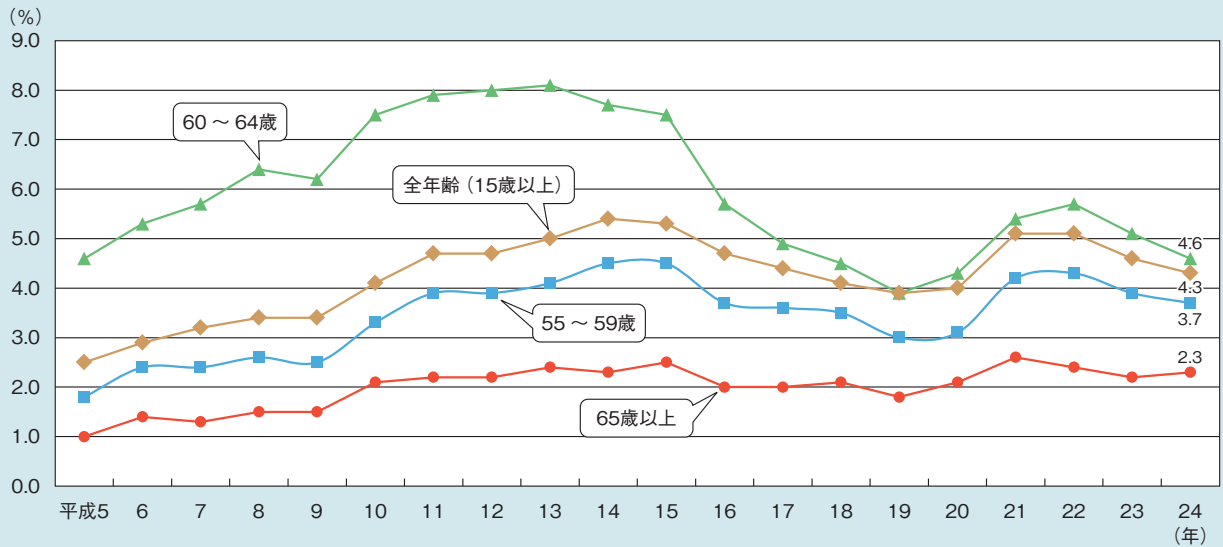
(2) 労働力人口

平成24（2012）年の労働力人口は、6,555万人であった。

労働力人口のうち65歳以上の人は609万人

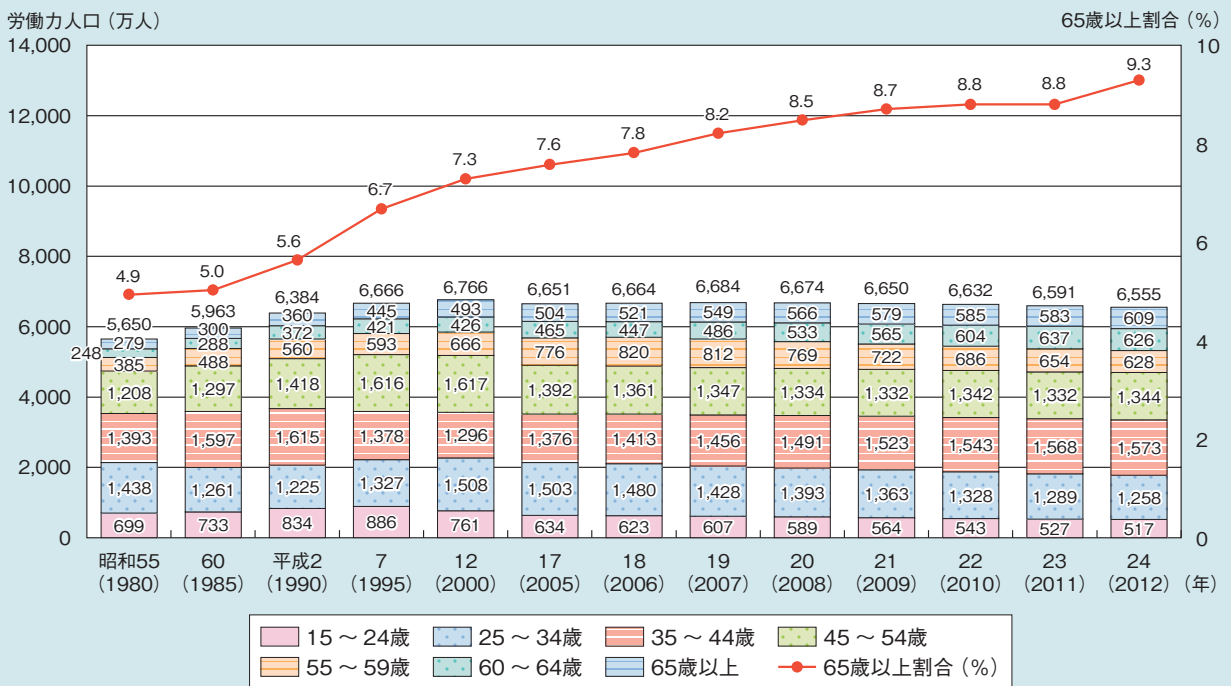
（9.3%）となり、労働力人口総数に占める65歳以上の人の比率は、昭和55（1980）年の4.9%から大きく上昇している（図1-2-4-4）。

図1-2-4-3 完全失業率の推移



資料：総務省「労働力調査」  
 (注) 年平均の値。

図1-2-4-4 労働力人口の推移



資料：総務省「労働力調査」(年齢階級(5歳階級)別労働力人口及び労働力人口比率)より内閣府作成  
 (注)「労働力人口」とは、15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせたものをいう。